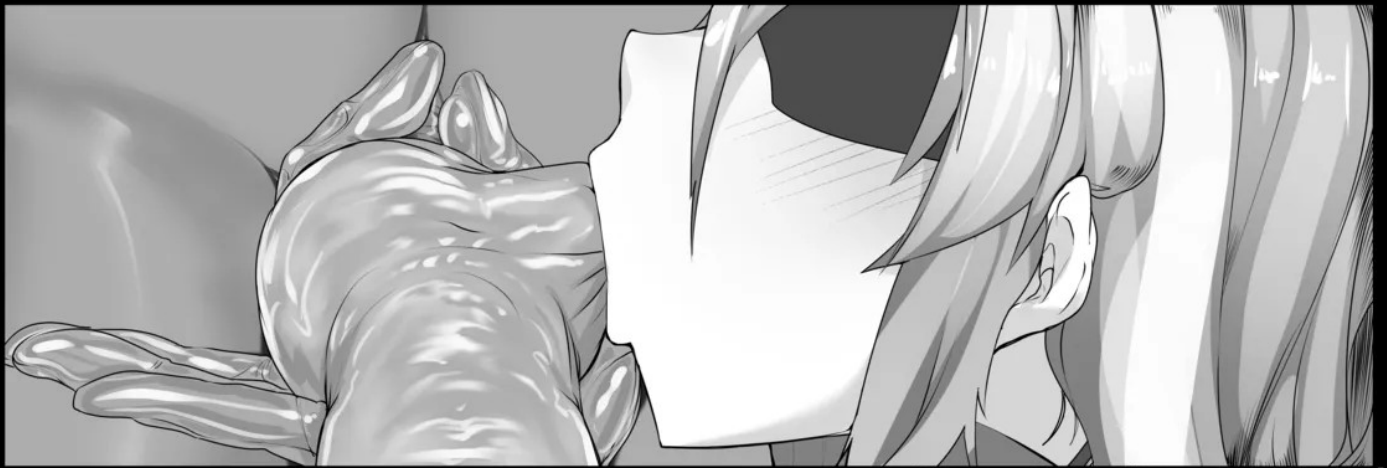




DIYTORIAN
PORTAL

muum
VILLAINS



私の名はクオン・カネダ
アーカム大学の学生であり
ライブラリーの司書を行う傍ら
アーカム最大の自警組織
〈アルマデイン〉を束ねるリーダー
三代目ピジョンブラッド
を名乗っている



何がごめんなさいよ！
こうなったらアンタの
そのキャブテンが
カブくて！

NOO CAB



童貞を
奪ってやる
んだから！！



私がピジョンブラッド
になった経緯は
単純だ……



じゅぽ

じゅぽ

じゅぽ

スーパーパワーと
組織を好きに運営できる
特権を用いて
私は――

そんなコト
云うな

ちゅぽ

気にかけていた
後輩を
サイドキック（相棒）
にした

ほらコレ！
私が一日中ずっと
着けてた
スーツの手袋だ

公にはなっていない
組織内では
反発もあったが――

ずうっと着けてた
から
まだ温かいぞ

は？

もう射精
したのか？

黙らせた



立派なヒーローに
なるんだろ？

私のしたいこと
くらしいは好きに
させてほしい……



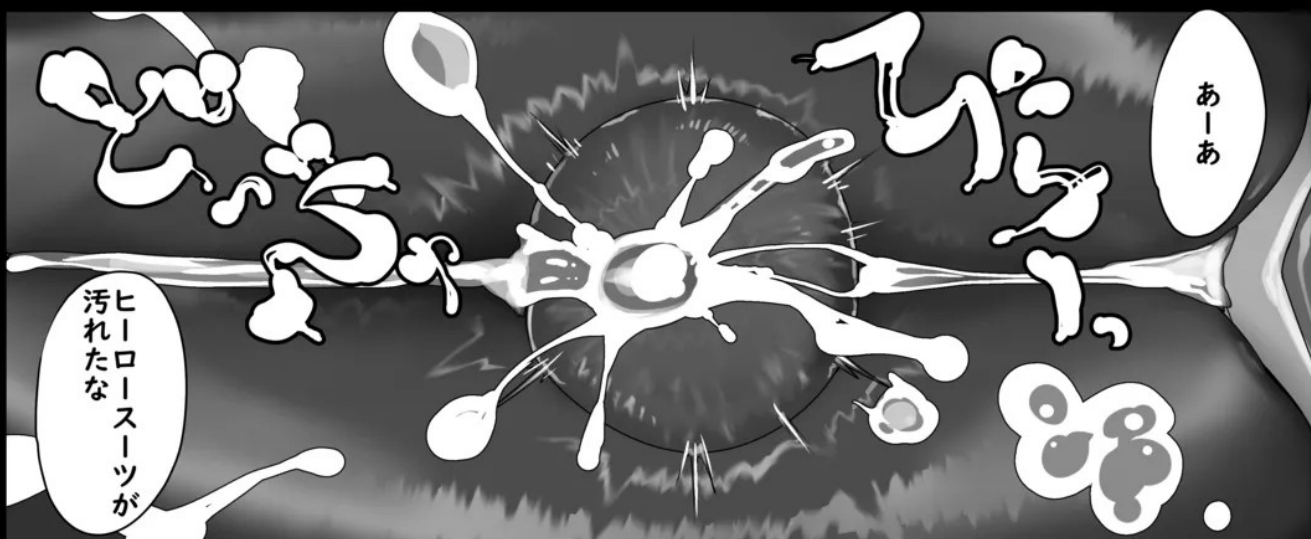
ほら
どうした……？

リョウくんは昔から
ヒーローに憧れていた
らしい
私は彼の「憧れ」であり

まさかヒーローの
太ももに射撃は
少ないよな……
少しはガマンしろ

それでは私の
サイドキック
なんて
務まらないぞ

「裏切り」であることが
心地よかった
私の貞操はもちろん
彼に捧げるが



あーあ

ヒーロースーツが
汚れたな



ほら……：：：
優しくするんだぞ
ゆっくり慎重に
入れ

しょうがない
ヤツだ
挿入たくて
仕方がないんだろ？

にゅ
にゅ
にゅ



ずいぶん切なそうな
顔になってきたな



！
あっ……：：：
いや気にするな！
焦らなくて
いいからね！

私は
スーパーパー
パワーを
持っている

だがヒーローが
増えすぎたアーカム
では
それを行使する
機会は少ない

ちゅ
ちゅ
ちゅ



おー
ちゅ
ちゅ
ちゅ

この街は
彼の理想と
程遠い場所
だとは





いいんだよ
随ちて

きて……
リヨウくん♡
あ♡



おんあおん♡

くリヨウ

おんあおん♡



じゃ
もう一回
しようか♡

私
が
その
手
を
握
っ
て
る
か
ら

付録

学生都市アーカムの分割区域へアーカム・タウンへにおけるヒーローとヴィランの抗争。その歴史は一九九九年から始まる――。

隕石落下によって半壊した土地を再開発して生まれたアーカムだが、そこに長期滞在した人間のなかで『新たな才能』に目覚めるものは少なくない。それは五感の異常発達であったり、触れてもいないものを捻じ曲げるといったような超能力的なものであったりと、個人によって様々な違いがあるものの、適応することで彼らをより特別な存在へと導く力であることに変わりはない。その力を用いて社会に貢献するか、あるいは犯罪という道に走るかは個人のモラルに依るだろう。

しかし仮に特別な力を持った犯罪者が現れ

た場合、その対処は学生たちが行わなければならない。私有地である大学や学生統治区域への警察の進入は習慣的に行えるほど容易ではなく、パトロール巡回の回数もほかの都市と比べて圧倒的に少ない。さらに大学はこういった能力を宿した人間の存在を隠ぺいし――仮に存在が公になったとしても正確に法律を機能させることが難しかったため――アーカム・タウンは半ば治外法権区域と化していった。これにより自分たちの才能にしか関心がないと思われがちな天才たちは、己の手でアーカムの平和を維持しなければならなかった。

アーカム・タウンにおける従来の犯罪は、特別な力を持った学生の衝動的かつ実験思想的な行動により引き起こされるものが大半を占めており、これに対抗するため学生自治会が自警団を組織したことで（そう云ってよけ

れば)正義と悪の構図が確立されていた。

だが突如へ魔神ウル〜と呼ばれる常軌を逸した力を持つスーパー・ヴィランが出現する。このヴィランに対抗するためアーカム自警団はその頭脳を結集し、身に付けた者により超常的な力を発揮させるパワー・ストーンを生み出すことに成功した。

このパワー・ストーンを持ち主に選ばれた者こそが、強い正義感とカリスマ、そして優れた頭脳と肉体のパワーを備える初代へキャプテン・ピジョンブラッド〜であった。ほかの学生たちを指揮しながら魔神の封印に成功した彼女は、今後出現するであろうスーパー・ヴィランに対する防衛隊としてへアルマデイン〜というヒーロー・チームの結成を提唱する。

その後、初代ピジョンブラッドの引退宣言時にパワー・ストーンは雄型と雌型に分けら

れ、そのうちの雄型は彼女が選んだ人材である二代目ピジョンブラッドに引き継がれた。

雌型は気功と武術を操る格闘家へユンムー〜に授けられ、ふたりは互いにアルマデインのチームリーダーとしての立場を守り、アーカムの街をより平和で安全にすることを誓った。すべてのアーカム住民は自分に与えられた力を持つに相応しい善性を宿し、彼らを導くことで犯罪を失くし人間社会に貢献させることができる。少なくともこの時の彼女たちはそう考えていた。

しかし二代目ピジョンブラッドの定めた方針により急激に勢力化していったことからへアルマデイン〜は徐々に組織としての統率力を失い、これに反発したユンムーは己が選抜した少数精鋭のヒーロー・チームへ石榴石(シリウシ)〜を作り独立する。以後、へアルマデイン〜とへ石榴石〜によりヴィランは

駆逐されていくが、もはやヒーローたちは互いの素性も正確に把握できないほどに組織力を増していく。

しかしアーカムの治安維持システムに、あろうことか××××が支援策を投じたことで状況は一変する。

アーカムは指定された区域での犯罪に関する刑罰の免除制度の導入。そして自警活動に対して多額の報酬制度を導入し、ヴィランとヒーローの戦いは激化した。

この時期から二代目ピジョンブラッドは表に姿を見せなくなり、へアルマデインのヒーローたちはピジョンブラッドからテキストでの指示を受けて行動するシステムに切り替わる。さらにヒーローたちは与えられた仕事にインセンティブ（報酬）を受け取るようになり、ヒーロー活動は純粋な自警ではなく受注業務に変化する。いっぽう、ユニム率い

るへ石榴石は鍛えた弟子たちを用心棒として派遣、さらに護身術、戦闘訓練といった渉外をこなすことで少数精鋭でありながらもアーカムに顔の利く武闘派集団としての立場を強めていく。

そのような状況で二代目ピジョンブラッドが突如失踪したことでへアルマデインは一時的に活動を停止。上層部のヒーローが指揮権を取り活動を再開するまでの間、これに目をつけたアーカム経済指標研究会の学生が組織ではなく個人の活動、「ヒーローのフリーランス化」を推進しサイドキック派遣会社へアイコンを起ち上げた。この騒動でへアルマデインは三割以上の構成員を失い、所属するヒーローも報酬を受け取るだけで命令には従わない半フリーの者が大半を占めることとなる。

二代目疾走後、長らくパワーストーンの持ち主を探していたアルマデイン上層部は、学生司書のクオン・カネダをその後継者として見出す。帰還したピジョンブラッドの存在意義は以前ほどは大きくなく、ヴィランの著しい減少が続いたこともあり「アルマデイン」ではだれがヴィランを仕留めるかで争いが勃発。さらに血の気の多い構成員が「石榴石」をはじめ「ジゲン教」へナイトチャペル」といった他勢力と耐えずいざこざを起こしている。皮肉にもスーパーヒーローの手により発足した伝統ある組織により、ヴィラン減少にも関わらずアーカム・タウンの治安は悪化する事となった。

そのような組織の新たなリーダーとして選ばれた三代目「ピジョンブラッド」はその力と権威を秩序に捧げるいっぽう、私欲的なことに用いることも少なくはなかった。

現在、アーカム・タウンで起こる犯罪の多くは素性の明かされない無個人的な凡人によるものが多く、それらを特別な力を持ったヒーローが狩るという状況が続いている。

そのため「アルマデイン」は特別な力を持った個人的なヴィランを「A級ヴィラン」と呼び、それ以外の名も知られていない取るに足らない者を「B級ヴィラン」と呼んだ。

三代目ピジョンブラッドは意中の学生リョウ・サキトウが自分に憧れていることを知ると、その権力で彼を自分のサイドキックに据えて行動を共にしていたが、それはリョウが組織内で孤立するに十分な反感を買った。

そして間もなく、リョウはB級ヴィランたちの手によって悪の道に堕ちることとなる。





